

2010年度(第15回)OBI同窓会報告

4月26日(月)午前11時よりOCC 9F 会議室にて2010年度OBI総会が開かれました。

出席者は世良田学院長代行、藤原副学院長、福井教務主任の先生方と同窓生20名、計23名でした。

尚、増田学院長は病院での検査のため欠席されました。

総会はⅠ部Ⅱ部に分かれⅠ部では礼拝、事務事項審議、Ⅱ部では愛餐会が持たれました。

Ⅰ部は浪井弘子姉の司会で、賛美、開会の祈り、同窓会会長挨拶と進められ、その後、世良田学院長代行による奨励がありました。

奨励では、ゼカ4:6、使徒1:8から「OBIの働き、将来の希望、なすべき業は知識ではなく聖霊に満たされて、聖霊の働きによってキリストの証人となすべきである」と語られ、励まされました。

続いて、福井教務主任よりOBIの現況、近況報告がありました。

卒業生は6名(音楽科1名)、入学者は8名(音楽科2名)ということでした。

次に、議題について審議に入りました。

2009年度の決算報告、監査報告、2010年度予算

案について承認された後、2009年度活動報告、2010年度活動方針説明が戸川同窓会会長からありました。

以上をもってⅠ部は終了し、休憩の後Ⅱ部の愛餐会に入りました。

Ⅱ部は、中島總一郎総務役員の司会により進められました。

賛美、感謝の祈りの後、食事を頂きながら一人ずつ自己紹介と近況報告を致しました。

良き奉仕をされておられる方が多く居られることを伺い感謝でした。

その後、研究科リサーチコース報告が中島總一郎総務役員から、OBI後援会とOBI 20周年記念実行委員会の報告が三浦喜代子後援会会長・20周年実行委員長からありました。

賛美、閉会の祈りをもって同窓会総会は終了しました。

終了時間は予定の午後2時の5分前という司会者お二人の名司会ぶりに、一同拍手いたしました。

(戸川記)



☆新入会員紹介☆

「お茶の水聖書学院で学んだこと」

高橋 まりか

私は以前、職場の同僚から、「あなたはフットワークが軽いね!」と言われていました。テキパキと動くことができる仕事を生き甲斐にしていました。そんな私に、母教会の主任牧師夫妻は、「これからあなたは、牧師の妻になるのだから、ある程度聖書の勉強をした方がよい」と導いてくださいました。3年前の春、私はお茶の水聖書学院に入学することになりました。

体を動かすことが好きな私は、聖書の勉強うんぬんより、恥ずかしながら、まず椅子にじっと座ってられるかが問題でした。普段、忙しくしていたせいか、本を読む習慣が全く無かったのです。まずは本に慣れ親しみ、勉強をする習慣を身に着けなければなりません。

幼い頃から、両親や学校の先生は、「いっぱい本を読みなさい」と言い続けてくれました。けれども、その大切なアドバイスを、私は聞き流し、遊んでばかりいました。そんな私が、聖書学院に入学したのです。「このままではいけない。本を読まないと、勉強に付いていけない…」と焦りを感じ、少しずつ本を読むようになりました。

「若者の活字離れ」が話題になって久しいですが、私もそんな若者の一人でした。活字から離れた人間が、再び活字に触れるということは、大変な訓練でした。聖書学院では、おとなしくテキストを読んでいましたが、家に帰ると、「勉強アレルギー」の悲鳴を上げていました。夫には、何度も宿題を手伝ってもらい、誤字脱字のチェックをしてもらいました。

そんな3年間の学びを通して、私の活字離れは徐々に回復していきました。聖書を読むこと、また様々な本を読むことが、苦にならなくなり、かえって自ら進んで本を読むようになくなりました。

最終学年で取り組んだ卒業論文は、牧師夫人をテーマにしたものでした。難しい課題ゆえに、本を読みあさりしました。「人生でこんなに本を読んだのは初めて!」と自分でも驚くくらい、部屋にこもり、じっと椅子に座り、活字に密着した日々を過ごしました。

今年の2月、卒論指導の藤原先生に論文を提出することができ、「良く頑張りましたね」との先生の一言に触れ、今までの努力がみな報われた気がしました。そして、今春 無事卒業させていただきました。

卒業してから数カ月経ち、私は自発的に本を読み、喜んで勉強するようになっていきます。市民図書館に通って本を借り、分からない単語は辞書で調べるようになりました。

「3年間、お茶の水聖書学院で学んだことはなんですか?」と問われたら、「聖書の〇〇について詳しくなりました」とお答えしたいところですが、私は「じっと椅子に座り、本を読む楽しさを学びました」と、お答えしたいと思います。

「学院を卒業して」

梅澤 近子

私が学院に行くようになってから、周りの方から三つの質問を多くいただきました。

1. どうして学院に行こうと思ったのですか?
2. 学びは如何ですか?
3. 卒業されたらなにをするのですか?

1の間 歴代誌第一4:10に「ヤベツの祈り」が有ります。「私をおおいに祝福し、私の地境を広げてくださいますように……」この祈りを思い巡らしていた時に、「地境を広げてくださいますように。」がここに留まりました。前から聖書の学びをしたいとは思っていたのですが、その時「今かも知れない。」と思いました。3人の子供たちは、それぞれ独立し、会社も週に1日出社すれば間に合うようになっていました。これは長年、夫と子どもたちにひたすら仕えてきた私のために神さまが「行ってもいいよ。」と時を備えて下さったのだと思いました。

2の間 3年間の学びは本当に楽しいものでした。教えてくださる先生方から学び出てくるものに感動を覚え、共に学んだ学院生との交わりも感謝でした。何よりも神さまが造ってくださった私の魂が満たされて喜んでいただけないかと思えます。ところが学院で学び始めて半年が経った時に、当時香港にいた息子の家庭からSOSがきて、「2、3ヶ月香港に来て助けて欲しい。」という要請でした。週1日とはいえ会社もあり、また、とても楽しい学院の学びを中断することは残念な思いがしました。ちょうどその時「もしかすると、このときのため」という、エステル記の本を読んでいた。ユダヤ人のモデルカイが娘として育て、今はアハシュエロス王の妃となっていたエステルへの手紙のなかで「あなたがこの王国に来たのは、もしかするとこの時のためであるかもしれない」つまりユダヤ民族を救うためではないだろうか。というこの言葉から、私がクリスチャンとされたのは「もしかすると、この時のため」かもしれないという思いが与えられて香港へ行く決心をしました。もしこの時、自分のことを優先していたなら、息子家族との信頼関係は無くなっていたかも知れません。御名を崇めます。

3の間 最期の年、私は学院で「使徒の働き」を学びました。ペテロや初代教会の使徒達、また特にパウロがユダヤ人の前で、また議会で、ローマの総督等の前で、「わたしたちはそのことの証人です。」とキリストの復活の証人として、命をかけて、証しし、弁明しているということでした。そこで、私もこの時代にあって、私と共にいて下さる、私たちの救い主・イエス・キリストの証人として召されているということを確認させられました。私は何かをすることはできないかも知れないが、御霊の助けによって主の証人として信仰生活を歩んでいきたいと思っています。

★哀悼★

「中川和代さんの思い出」

森 登

OBI第7期卒の中川和代さんは、私が本郷台教会に在籍していた当時からの同信の方でした。私が宣教師のお手伝いに舞岡福音(現在横浜永谷教会)の開拓に転籍してから、ご主人の転勤で数年地方に出られ、戻られた1996年にこの横浜永谷教会に籍を入れて、爾来ずっと教会学校教師、また役員として良く宣教師を支えて下さいました。

2010年5月21日この永谷教会で4日前に天に召されて行った中川さんの告別式があるとの知らせを永谷教会から受けて驚きました。私は2004年より家に近い本郷台教会に復帰戻っていたので、会う機会が少なくなっていたからです。

告別式には、彼女の別れを惜しんで大勢の人が参列下さり、家庭では子育てを済ませ主婦、地域には民生児童委員として仕え、また教会には役員・教会学校教師として仕えて、主の証しの64年の生涯は、完全燃焼であった事を知りました。